

教育だより

受け継がれる

三芳の郷土芸能

こども芸能大会を開催します



郷土芸能とは、その地域に古くから伝わる芸能のことです。三芳には、上富・北永井・藤久保・竹間沢の各地区にそれぞれお囃子が、竹間沢の前田家に里神楽と車人形が伝わっています。これらは町指定無形民俗文化財（芸能）に指定されており、保持団体が後継者の育成や日々の研鑽と技量の向上に努めています。

ここでは、郷土芸能を後世に伝えるべく活動する各団体の歴史や取り組みと、それを習い覚えようとする子供たちの様子を紹介します。

問い合わせ 社会教育課（内線517）

巻藁は今ではビニールパイプに変わりましたが、指導する場所や方法は変わりません。子供たちは夕方に農家の納屋に集まり、まずはパイプを叩いてお囃子のリズムを覚えます。リズムがそろってきたら、ようやく太鼓を使っている練習です。太鼓を叩く子どもたちはとてもうれしそうです。

竹間沢のお囃子

竹間沢共楽会



竹間沢共楽会に伝わるお囃子は神田囃子で、江戸時代に伝えられました。新座市の「大和囃子」とは音色や調子が良く似ているので、兄弟囃子と言われます。また、北海道旭川市にある「雨粉囃子」

上富のお囃子

上富囃子保存会



上富のお囃子は、明治時代に東京王子から伝えられました。特産であるさつまいもの取引先から招かれて祭り見学に行き、「上富の祭りでも囃子の音が響いたら」と、王子から師匠を呼んで習った事が始まりとされています。

現在は、上富囃子保存会によって継承され、上富小学校の郷土伝承クラブでお囃子を指導するなど後継者育成に熱心な指導を続けています。子供たちは、地元の祭りなどで習い覚えたいお囃子を披露し、特に隔年で行われる上富まつりでは、山車の上で大人顔負けの堂々とした姿を見せてくれます。また、お囃子を習う子供たちの中には幼

思もおり、小学生に負けまいと一生懸命に踊る姿がとてもかわいらしいです。

北永井のお囃子

北永井囃子保存会

北永井には江戸時代から伝わるお囃子がありましたが、明治時代に「重松流」の創始者・古谷重松から直接指導を受け、新囃子に変わりました。重松流は、威勢の良い賑やかな曲調が印象的です。



現在、北永井囃子保存会によって継承されており、保存会では夏に三芳中学校の総合的な学習の時間で一年生にお囃子体験を指導し、冬は主に小学生を対象とした伝習を行っています。北永井稲荷神社の祭礼では、小・中学生と一緒に

藤久保のお囃子

藤久保芸能会

神田囃子の流れを汲む藤久保のお囃子は、大正三年を最後に一旦は途絶えてしまいましたが、それを地元の有志たちが古老に思い出し、でもらいながら、昭和二十六年に蘇らせました。そのころ伝習を受けた人は、「農作業を終わらせた夜に農家の納屋に集まり、青竹に藁を巻いた巻藁を叩きながら囃子のリズムを覚えたよ。初めて村の人たちの前で披露できたときはうれしかった」と話します。その音色は、藤久保芸能会によって継承されています。



も兄弟囃子の一つです。明治時代に、この付近から開拓移住した人たちによって伝えられました。共楽会では、冬になると寒稽古として子供たちの練習が始まります。子供たちはお祭りが大好き。祭礼に向けて、持ち前の元気良さを太鼓にぶつけて練習に励みます。

竹間沢里神楽

竹間沢里神楽保存会

神楽とは、神社の祭礼に際して神を迎え、舞を奉納する神事芸能です。竹間沢の前田家は代々神楽師の家元で、各地の神社に招かれて奉納を行ってきました。



竹間沢車人形

竹間沢車人形保存会

保存会では、竹間沢小学校四年生の総合的な学習の時間で指導し、そこで興味を持った児童が伝習に通っています。始めは神楽囃子の独特なリズムを覚えるべく、大拍子と呼ばれる太鼓を使い、その高い音色が遠くまで響くように、しつかりと打ち鳴らす練習をします。このリズムがわかれば、踊る時も調子を合わせやすいです。太鼓も踊りも覚えることが多くて難しい反面、「出来た時が楽しい」と子供たちは、やりがいを感じています。

車人形は、文楽人形に似た大形の人形芝居ですが、三人で操作す

郷土芸能は、何もなくても伝え残るという文化遺産ではありません。伝えようとする保持団体の熱心な活動と習い覚えようとする子供たち、さらには保護者や学校、地域の人々の理解がひとつになって初めて道が開かれるものです。三芳に受け継がれてきた豊かな郷土芸能が、これからも途絶えることなく継承されることを願ってやみません。



る文楽とは異なり、輦轎車ウツクダマを使って一人で人形を動かします。江戸時代末期に、人形芝居の座元であった古谷平五郎の娘・テイが前田家に人形芝居用具をもって嫁いだことがきっかけで、吉田三芳を名乗り三芳座を旗揚げして各地で興

行を行いました。映画などの娯楽が盛んになると次第に衰退していき、およそ五十年間途絶えていましたが、昭和四十七年に復活上演され、現在は竹間沢車人形保存会によって継承・発展しています。保存会では、夏に三芳中学校の総合的な学習の時間で、一年生に車人形の操作を指導しています。人形自体が重く、それを右腕一本で支えて動かさなければならぬので、まだ腕力の乏しい中学生はすぐ疲れてしまうことも。それでも秋の発表会に向けて練習を続け、発表会では見事に演じられました。



「こども郷土芸能大会」のお知らせ
日時：二月二〇日(日) 午後一時開演
場所：竹間沢公民館ホール
入場無料



行きたいニャー

図書館だより

中央図書館 ☎258-6464
火～金 10:00～19:00 土日 10:00～18:00
竹間沢分館 ☎274-1722
火～日 11:00～18:00



1月の予定

日	月	火	水	木	金	土
						1 (祝)
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

中央図書館

くぐりくらタイム (絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介) - 当日参加 - 第1・3金曜日 (保護者同伴) 11:00～11:15 6ヶ月～1歳
11:20～11:40 2・3歳～ (保護者同伴) 第2・4火曜日 16:00～16:30 3～8歳

とよかん・くろぶ 一会員制- 第4土曜日 (講師の読み聞かせと司書のブックトーク) 10:10～11:00 1・2年生 40人
11:10～12:00 3～6年生 50人

竹間沢分館

スイミーおはなし会 第4木曜日 (読み聞かせとブックトーク) 16:00～16:30 4歳～小学生

地域文庫のお知らせ
(児童書の貸出、お話しなど。)

つくし文庫・1月15日(日)、10:00～12:00
場所/上富1区第1集会所にて

あらた文庫・毎火曜日 15:30～18:00
場所/荒田自宅にて (藤久保536-4 三芳東中学校近く)



「一般書」 ピーターラビットの生みの親エトリクス・ポター

エリザベス・バトリック 著
おひかり 訳
ほるぶ出版 九四四年十一月初版発行
請求記号 一般930ポタ

富裕な中産階級家庭の子供部屋で育ったというエトリクスが、有名な小説絵本の作者になる経緯や、湖水地方の自然保護活動に打ちこんでいく姿など、一人の女性の真摯な生涯を小説仕立てで追う。



児童書 「ピーターラビットのおはなし」

エトリクス・ポター さく・えいしつもんや 著

福音館書 一九七一年十一月初版発行
請求記号 UEシリーズ

ある日、いたずら好きの子うさぎピーターは、マグルーさんの畑にしのびこみ…。一九〇二年にロンドンで出版され、今や世界中で愛される「ピーターラビットの絵本」(全26巻)の第一巻。

図書館の本棚より 『ピーターラビット』特集 別巻紹介中

中央図書館にて 募集中!

★新春おはなし会 (昔語りと紙芝居) - 中央図書館にて申し込み受付中 - 《電話可》
日時 1月30日(日)、10:00～10:40 5歳～2年生 40人 親子で楽しめるお話
11:00～12:00 3年生～おとな 40人 聞きごたえのあるお話

★おはなしはじめのいっしょ～覚えてみたい楽しいお話がいっぱい～
日時 1月28日(金)、11:00～11:30 - 当日参加 -
会場 中央図書館 2階会議室
対象 語りに興味のある方、聞くだけの方、どなたでも。(赤ちゃん連れOK)
内容 小さいお話(語り)、手遊び、わらべうた
共催 おはなしサークルかにかにこそこ

竹間沢くぐりくらタイム (毎月第4火曜日/竹間沢分館)
11:00～11:30 6ヶ月～3歳児まで (保護者同伴)
※絵本・紙芝居・わらべうた (親子遊び) など。乳幼児のこぼれお話をはぐくむプログラムです。ゆったりと楽しむひとときをお楽しみください。



健康スポーツライフ

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。
問い合わせ 総合体育館 ☎258-0311

～フットサルフェスタ～

フットサル関東1部リーグ所属の強豪ZOTT WASEDA FUTSALCLUBを招き、フットサル教室を行います。
世界で活躍しているスター選手は、幼少期にフットサルを経験しています。狭いスペースで練習、試合を経験することで足元の技術、情報判断、表現力が養われます。スポーツの楽しさを体験することは勿論、技術習得の絶好のチャンスです。
日時 平成23年1月10日(月・祝日) 午前10時～午後5時
午前(午前10時～正午):フットサルクリニック
…フットサルの基礎や技術を指導します。
午後(午後1時～5時):エキシビジョンマッチ
…ZOTTと招待チームとのハイレベルの試合や、近隣小学生による試合を行います。

定員 60名
対象 フットサル・サッカーの好きな小中学生(13歳以下)
講師 早稲田クラブ ZOTTコーチスタッフ
参加 観戦 無料
問い合わせ 総合体育館 ☎258-0311
(指定管理者:東京ドーム・トルツリーグループ)

～スタジオプログラムの紹介①～
HIPHOP & JAZZ (山根)
毎週日曜日 15:45～16:45



音楽にのってただ有酸素運動をするだけでなく、首や肩、胸など部位別に動かすので最初は難しく感じますが、先生がわかりやすく何度も繰り返し教えるので徐々に慣れていくことができます。

これからのシーズンはイベントが目白押し。普段よりも食べたり飲んだりする機会が多くなるのではないのでしょうか。さらに、厚着をして体型を隠せる冬は、油断しがちです。
今月号から3回に渡り、そのような1年で一番太りやすい冬に、とらない為の対策をご紹介します。

冬に太りやすい理由とは?
人間の体は、脂肪を溜め込んで寒さから体を守っています。気温が低い冬は、自然と脂肪が溜まりやすくなってしまいます。
脂肪というものは、燃やさなければ溜まっていきます。脂肪を燃やすには、「リパーゼ」という酵素を働かせる必要があります。この「リパーゼ」を多く働かせる一番の方法は、体を温める事。『冬は体を温める』。これが、冬太り解消の大きなポイントとなるのです。

冬太り3つの解消法
では、どのようにして体を温めるのがいいのでしょうか。体を温める方法を食事、運動、入浴と3つに分けて紹介していきます。今回は食事について紹介していきます。
普段食べているものには、体を温める食べ物、体を冷やす食べ物があります。体の外からだけではなく、体の中を温めることが重要です。体を温める食べ物の特徴は、
①寒い地方で獲れる食べ物 例)塩シヤケ
②暖色(赤・黒・黄・橙色)の食べ物
例)白米より玄米 肉や魚は自身より赤身
③水分が少なく硬い食べ物
その他にも、しょうが・ねぎ・にんにく・梅干し黒焼きなどが、特に体を温めるのに効果が期待出来ます。以上の事に気を付けて食材選びを行ってみてください。

技の文化財
第十回 茶師

味は静岡、香りは宇治、
味は狭山とての味

埼玉県は、お茶の大規模生産地として北限に位置しています。県内で生産されるお茶はいわゆる「狭山茶」で、内開市・所沢市をはじめとした内開市が主産地です。狭山茶作り歌に聞かれるように、他の産地より寒い地域で作られるお茶が肉厚になり、お茶にする味わい深く、甘みがあります。

三芳でお茶の栽培が始まったのは、江戸時代中頃と伝えられています。昭和四年に編み込まれた「三芳開拓誌」によると、多福寺に繁茂した茶の木を三芳周辺の農家が、お茶の木を畑境に带状に植えました。これを畦畔茶と呼び、隣の畑の境に茶の木を、畑の土が風で飛ばされるのを防ぐ役目も果たしていました。お茶の生産が増えたのは、輸出品として需要が高まったのようになってからのこと。茶問屋を兼ねた製茶業を専門とする家が現れ、農家は畦畔茶を摘んで、自家製茶して問屋に売りました。特に五月の一番茶は「根入り」の金を生むと言われ、農家にとってはその年の収入を稼ぐための重要な現金収入となっていました。

今では機械による製茶が主流ですが、昭和初期まではほとんど農家の手作り(焙煎)があり、手揉みによる製茶が行われていました。お茶は「五」に燃るといわれ生葉五貫目(約千疋から一貫目)約四疋に仕上げることが良いとされています。しかし、手揉みで生葉を製茶にするまでは約五時間か

かり、しかもほぼ同じ姿勢で行う作業は重労働でした。かつて上富や北水井では「男で茶作りができれば一人前ではない」と言われ、若者の多くは地元や所沢の製茶屋で開かれた伝習所に通い、製茶技術を習得して「茶師」として活躍しました。

機械製茶になった今でも、基本は手揉み茶の感覚にあると話してくるのは、三芳町茶業研究会の会長、伊東威衛さん。新茶の頃に手揉み茶を作り、茶葉の感覚を確認すると言います。「一番茶が一番良い生葉を使うから、最初から五感を研ぎ澄ましてお茶しなければならぬんだ」と埼玉では他の生産地と違って二番茶までしか摘み取らない、特に失敗はできない「生葉を茶す時は甘涼しい香りがするか確認し、揉み込むときは乾き具合を確かめ、仕上げでは製品のツヤを見たりと機械製茶になっても、最後は人の感覚が頼りです。「茶の木が育つまで五八年。じっくり育てたお茶だから、低温でうまみ成分をうまく引き出すように飲んで欲しいね」。

最近ではペットボトルのお茶が普及し、急須でお茶を入れることが少なくなってきましたが、休日は急須でじっくりと茶葉が開くのを待つて、ゆつたりとお茶を味わってみてはいかがでしょうか。



▲ホイロと貯蔵用の茶籠

おはようマラソン

秋が深まり、朝晩は肌寒いと感じるようになった11月、唐沢小学校では毎年恒例の「持久走記録会」にむけての練習スタートしました。

「持久走」とは、持久力を高めるために学年ごとに定められた距離を自分のペースで走る運動です。唐沢小学校では低学年が200m、中学年は1200m、高学年は2000mの距離を走ります。どの子どもたちも、初めて練習で走ったときのタイムを、少しでも縮めようと一生懸命練習を重ねていました。

その練習のひとつとして、11月11日は1時間目が始まる前の時間を使って5分間を走る「おはようマラソン」という取組が行われました。これは学校全体で持久力を高めるために行った取組で、はじめの1分間はクラス全員ペースを合わせて走り、その後、自分の目標にあったスピードで4分間走り、自分のおはようマラソン」は週に3回取り組み、着実に力をつけることができます。また4分間という決められた時間を走りこむことにより、子どもたちは「昨日より多く走れた」、「同じくぐらいいい走れなかつたけれど、前より疲れなかつた。今後はペースを上げてみよう」と自分の力の伸びを実感できたり、次の目標を立てやすくなったり、意欲的に取り組むことができます。

数年来、子どもたちの体力の低下が問題視されてきましたが、ここにごさようやく上向き傾向に転じたと報道されました。埼玉県でも持久力に関する数値が向上しており、三芳町も埼玉県の結果とはほぼ同様であることが、毎年実施している「新体力テスト」の結果からもわかります。しかし、子どもたちの生活が昔とは大きく変化し、全身を使う外遊びをすることが減り、室内で場合によっては屋外でもゲーム機で遊ぶ等、ほとんど体力を使わず生活することが増えてきました。そのため健康や体力の維持増進には日頃の体力向上の取組が不可欠です。

健康な体には健康な心が育つといわれます。唐沢小学校は元気な朝のあいさつから「おはようマラソン」がスタートします。練習の時には走ることが苦手な友達に「がんばれ!」「もう少し!」と励まし合う声が響きました。そしてこの子ども

